

多野藤岡医療事務市町村組合
公立藤岡総合病院だより

SASAEAI

2026
No.48

さ さ え あ い

皮膚科

一般皮膚科診療
炎症性・自己免疫性疾患
皮膚腫瘍（できもの）
小児皮膚科
創傷・褥瘡（床ずれ）治療

栄養室

栄養室を支える「管理栄養士」
栄養室の活動
地域との連携
地域がん診療連携拠点病院
栄養室の役割

巻末コラム

連載 病院見学レポート

登録医の紹介

深沢内科医院（藤岡市）
どんぐりこども診療所（本庄市）

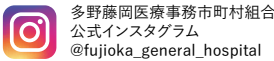
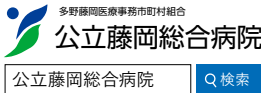
特集

皮膚科のこと
栄養室のこと

ご自由にお持ちください

多野藤岡医療事務市町村組合
公立藤岡総合病院だより
SASAEAI ささえあい 2026 No.48

〒375-8503 群馬県藤岡市中栗須813番地 1 公立藤岡総合病院 経営管理部 企画財政課
TEL 0274-22-3311 (代表) / FAX 0274-24-3161



公式Youtube



【表紙】皮膚科診察室と嶋岡部長



当科では、一般的な皮膚のトラブルから
難治性の慢性疾患まで、
幅広い症例に対応できる体制を整えています。

公立藤岡総合病院だより

SASAEAI

さ さ え あ い

病院の理念

地域住民から信頼される医療

基本方針

- 1 患者さんの権利と意思を尊重し、患者本位の医療を提供します。
- 2 地域中核病院として、救急医療、高度専門医療の充実に努めます。
- 3 地域の医療・介護・保健機関と密接な連携を行います。
- 4 次世代の医療従事者の教育・研修に貢献します。
- 5 勤務環境の整備と効率的かつ健全な病院経営に努めます。

1 一般皮膚科診療

▶ 日常的なトラブルの解消と予防

にきび、湿疹・かぶれ、じんましん、水虫（白癬）、いぼ（尋常性疣贅）など、日常的によく見られる皮膚疾患に対し、迅速かつ正確な診断を行います。皮膚バリア機能の改善に焦点を当てた治療戦略を立案し、薬物療法だけでなく、スキンケア指導、生活指導を通じて、症状の長期的なコントロールを目指します。



特集

皮膚科のこと

〈PROFILE〉

部長 嶋岡 正利

SHIMAOKA Masatoshi

日本皮膚科学会専門医
がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了
臨床研修指導医養成講習会修了
難病指定医

4 小児皮膚科

▶ デリケートな肌を守る専門診療

乳児湿疹、おむつかぶれ、アトピー性皮膚炎、とびひなど、小児皮膚疾患について、保護者の方へのきめ細やかな指導を含めた専門的な診療を行います。ステロイド外用薬に対する不安などについても丁寧にカウンセリングし、安心して治療に取り組んでいただけるよう努めます。

5 創傷・褥瘡（床ずれ）治療

▶ 多職種連携による包括的なケア

高齢者や寝たきりの方に見られる褥瘡（床ずれ）や、治りにくい難治性潰瘍の治療は、皮膚科にとって重要な専門分野です。褥瘡は、単なる皮膚の損傷ではなく、全身の栄養状態、体圧管理、リハビリテーションなど多岐にわたる要因が絡み合って発生します。

当院では、皮膚科専門医による適切な局所治療（デブリードマン、外用薬の選択）を核としつつ、皮膚・排泄ケア認定看護師を含む看護師、栄養士、薬剤師、理学療法士などと連携した「多職種連携チーム（褥瘡対策チーム）」による包括的な治療体制を構築しています。これにより、治癒促進と再発予防の両面からアプローチし、患者さんの早期回復と QOL 維持に努めています。



▲多職種連携チーム（褥瘡対策チーム）によるカンファレンスの様子

▶ 最後に

特に難治性の疾患でお悩みの方、これまでの治療で十分な効果が得られなかった方は、生物学的製剤をはじめとする新たな治療選択肢についても、ぜひ一度ご相談ください。

2 炎症性・自己免疫性疾患

▶ 最新治療の導入と専門的な対応

アトピー性皮膚炎、尋常性乾癬（かんせん）、掌蹠膿疱症、円形脱毛症、水疱症などの難治性疾患に対しても積極的に取り組んでいます。これらの疾患は皮膚だけでなく全身に影響を及ぼし、患者さんの QOL を著しく低下させることがあります。

近年、これらの疾患の病態解明が進んだことで、従来の塗り薬や内服薬、光線療法では効果が不十分であった中等症から重症の患者さんに対して画期的な治療法として「生物学的製剤（バイオ製剤）」や「JAK（ジャック）阻害薬」が導入されています。

▶ 尋常性乾癬（かんせん）

皮膚の炎症を引き起こす特定のサイトカイン（情報伝達物質）の働きをピンポイントで抑える生物学的製剤により、皮疹（皮膚のぶつぶつや赤み）の劇的な改善が期待できます。当科では、最新のエビデンスに基づき、患者さんの重症度や生活背景を考慮した上で、これらの製剤を適切に選択し、導入・継続的な管理を行っています。

▶ アトピー性皮膚炎

炎症や痒みの原因となる特定の免疫経路を標的とした注射薬・内服薬の生物学的製剤（JAK 阻害薬含む）を積極的に活用しています。長期間にわたる苦痛な痒みや湿疹から解放され、日常生活の質を大幅に向上させることを目標とした、テーラーメイドの治療を提供しています。

当科では、これらの先進的な治療を安全かつ効果的に行うための専門知識と管理体制を整えており、症状の寛解（症状が落ち着いた状態）と維持を目指します。



3 皮膚腫瘍（できもの）

▶ 早期発見と早期治療

ほくろ、粉瘤、脂肪腫などの良性腫瘍はもちろん、皮膚癌（基底細胞癌、有棘細胞癌、悪性黒色腫など）の早期発見と診断に重点を置いています。ダーモスコピー検査による診断に加え、必要に応じて組織検査を迅速に行います。悪性の疑いがある場合は、群馬大学皮膚科と緊密に連携を取り、切れ目のない集学的治療を提供できる体制を整えています。



▲集団栄養指導（糖尿病教室）の様子



▲個別栄養指導の様子



栄養室を支える

「管理栄養士」

管理栄養士は、患者一人ひとりの病状や治療方針に応じた栄養管理を行う専門職です。医師や看護師、薬剤師、リハビリなど多職種と連携し、栄養面から治療を支える役割を担っています。

主な活動内容としては、入院患者に対する栄養状態の評価や食事内容の検討と治療食の提供などを行い、低栄養の予防や改善、疾患の回復促進をサポートしています。

また、退院後の生活を見据え、患者さんやご家族に対し食事の工夫や自己管理方法について栄養指導を行っています。

それに加えて、NST（栄養サポートチーム）活動に参加し、重症患者や経口摂取が困難な患者さんに対して適切な栄養補給方法をチームで検討しています。

その他にも、病院給食の衛生管理や食事の質の向上に努め、患者さんの満足度と安全性を確保しています。

このように、管理栄養士は「食」を通じて医療の質を高め、患者さんの健康と生活の質の改善に努めています。

栄養室のこと

私たち病院の食事部門（以下、栄養室）は、入院患者さんの治療と回復を「食」を通じて支えると同時に、地域の皆さまの健康維持や生活の質向上にも貢献できるよう活動しています。病院食と言つと「制限が多く味気ないもの」というイメージを持たれることもありますが、当院では治療効果と食べやすさを両立させるため、医師の指示に基づいた食事を基本としつつ、患者さんが少しでも食事を楽しめるよう嚥下調整食や選択メニュー、行事食などを取り入れる工夫を重ねています。

栄養室の活動

食事は治療の一部であり、栄養の充足は疾患の改善や再発予防に直結します。栄養室では管理栄養士が中心となり、栄養状態の評価から献立作成、調理、盛り付けまで一貫して管理し、医師や看護師、薬剤師、リハビリスタッフなどと連携しながら患者一人ひとりに最適な栄養管理を行っています。また、調理や提供の場面でも衛生面に細心の注意を払い、安全で安心な食事を届けることを第一に考えています。

回復期リハビリ病棟では、食事を通じて体力回復や嚥下機能の改善にも積極的に介入しています。医師や看護師、リハビリスタッフと協力し、退院後を見据えた支援

を行っています。

加えて、退院後も継続して食生活を支えられるよう、患者さんとご家族に対する栄養指導にも力を入れています。糖尿病や高血圧、



腎臓病など慢性疾患のある方にとっては、日常の食生活が治療を大きく左右します。当院では退院前の個別栄養指導や集団栄養指導を通じて、家庭での食事の工夫や外食時の注意点など、実生活に直結するアドバイスを行っています。



また、11月には腎臓病の料理教室を開催し、実際に食事を作り食べていただく活動も行いました。こうした取り組みが再入院防止や生活の質の向上に少しでも役立つよう、日々努力しています。



地域との連携

退院後も切れ目のない栄養連携を行うため、入院中の栄養状態を「栄養情報連携書」にまとめ、地域の病院や施設と共有・連携しています。これは入院中に行った栄養管理の内容や退院後に特に留意すべき食事上のポイントをまとめたもので、患者本人だけでなく、ご家族、地域の病院、施設及び開業医にも共有できる仕組みとなっています。これにより、病院での栄養管理と地域での生活がスムーズに繋がり、継続的なサポート体制を築くことが可能となりました。

また、地域医療連携を更に強化するため、外来での栄養指導の依頼についても協力をお願いしていく予定です。糖尿病や脂質異常症などの生活習慣病は食事療法の継続が極めて重要ですが、患者自身で正しい食習慣を身につけるのは難しく、途中で挫折してしまうことも少なくありません。そこで、地域の開業医の先生方に「外来栄養指導依頼」を作成していただくことで、当院の管理栄養士による専門的な指導を受けることができます。この仕組みにより、病院と

地域の病院が協力し、患者を中長期的に支える体制を構築したいと考えています。

地域がん診療連携拠点病院

がん患者の栄養管理は大きな柱のひとつです。がん治療に伴う副作用（食欲不振、味覚変化、口内炎、嚥下障害など）は栄養状態の低下に繋がりがやすく、治療の継続や回復に影響を与えることがあります。そこでがん病態栄養専門管理栄養士を中心に診断初期から患者の栄養状態を評価し、治療の進行に



じた食事の工夫や栄養補給方法を提案しています。また、がん治療中の体重減少や低栄養を予防するため、患者さんやご家族に対して「食べられる工夫」「栄養補助食品の活用」「治療中でも楽しめる食事」なども具体的に提案しています。緩和ケア期においても「最後までその人らしく食べる」ことを支える姿勢を大切にしています。



栄養室の役割

栄養室の役割は、単に「食事を提供する」ことに留まりません。



深沢内科医院

藤岡市

当院は藤岡市上戸塚にあります。足かけ10年間公立藤岡総合病院に勤務した後、2001年に開業しました。藤岡の地で診療をして35年となり、親から子、さらに孫の顔まで見ることができました。

診療科目は内科です。看護師7名と事務5名です。レントゲンや胃カメラはAIの助けを借りて見落としがないように努め、DEX法の骨塩測定機器を導入して骨粗鬆症診療も行っています。また、エコー、ホルター心電図、脈波図、呼吸機能検査、神経伝達速度測定も必要に応じて行っています。

当院は専門性のない内科医院なので、身の丈を知り、病院連携、診診連携を重視しています。これからも公立藤岡総合病院と連携して、地域の皆様に気軽に相談していただける医院にしていきたいと思っています。



院長 深沢 和浩 FUKAZAWA Kazuhiro

診療科目：内科

〒375-0013 藤岡市上戸塚142番地1
TEL 0274-22-6555
診療時間 9:00～12:00 14:00～17:45
休診日 水曜午後、土曜午後、日曜、祝日



どんぐりこども診療所

本庄市

当院は小児科専門医として、平成18年5月に本庄市で開業いたしました。小児科疾患の中でも、感染症・アレルギー疾患・消化器疾患の患者さんを中心に診療をさせていただいておりますが、他の分野の疾患も小児科の一次診療として、幅広く診させていただいております。さらに、待ち時間をできるだけ少なくするために、令和6年7月から新たな予約システムを導入し、対応させていただいております。また、定期予防接種も御両親が安心してワクチンが受けられますよう、丁寧な説明を心がけて診療(予防接種)を行っております。

当院では、<子供たちのために>をスローガンに、スタッフ一同力を合わせて、毎日の診療を行っております。困ったことがありましたら、気軽にお声がけください。



院長 田端 雅彦 TABATA Masahiko

診療科目：小児科、アレルギー科、
内科、消化器内科

〒367-0043 本庄市緑2丁目12-10
TEL 0495-21-8885
診療時間 9:00～12:00 14:30～18:00
木曜は9:00～12:30
火曜、水曜午後は15:00～18:00
休診日 木曜午後、土曜午後、日曜、祝日

病院見学レポート

普段は目にする事のできない病院の舞台裏を、不定期連載でご紹介します。
初回となる今回は、調理室の中を覗いてみましょう。
ここでは毎日、多くの入院患者さんの病院食が作られています。

